

令和6年度第1回
静岡市歴史博物館収集資料審議委員会
会議録

令和7年3月13日（木） 13時30分～15時30分

■会議録確認署名

「令和6年度第1回 静岡市歴史博物館収集資料審議委員会 会議録」につ
いて、

内容を確認しました。

静岡市歴史博物館収集資料審議委員会 委員長

氏名（署名）

日比野秀男

令和6年度第1回 静岡市歴史博物館収集資料審議委員会 会議録

- 1 日 時 令和7年3月13日(木) 13時30分～15時30分
- 2 場 所 静岡市歴史博物館 講座室
- 3 出席者 【委員】日比野秀男委員長、本多隆成副委員長、
大石泰史委員、樋口雄彦委員
【事務局(静岡市歴史文化課)】
田中稔久課長、前島将人課長補佐、
國島朋子主任主事、川口しずか会計年度任用職員
【静岡市歴史博物館】
宮崎泰宏学芸員、増田亜矢乃学芸員
- 4 傍聴者 0人
- 5 議 題 (1) 令和6年度購入・受入(寄附・寄託)資料について
(2) その他報告事項
- 6 会議内容

事務局 前島

皆様こんにちは。定刻の少し前ではございますけれども、皆様お揃いでございますので、進めさせていただきたいと思っております。それではただ今より、令和6年度第1回静岡市歴史博物館収集資料審議委員会を開催いたします。

委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中、本日の委員会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

本日司会を務めさせていただきます歴史文化課の前島と申します。どうぞよろしくお願いたします。

本日の出席委員数は4名で静岡市附属機関設置条例第7条第2項の規定の過半数に達し本会議は成立となります。

なお、会議は公開となっており、議事録作成のため録音させていただきますので予めご承知おきください。

それでは開会に先立ちまして、静岡市歴史文化課課長田中よりご挨拶申し上げます。

田中課長

年度末のお忙しいところ本当に今日どうもありがとうございます。挨拶といたしますか、少しご報告をさせていただきたいと思っております。

昨年ですね、歴史博物館の入場者が目標と大きく離れて、少なかったということで新聞やテレビを賑わせた時期がございました。もちろんテレビ、新聞は視聴率であるとか購買層、そういったものを意識してセンセーショナルに書くわけですが、その後、歴史文化課で全国の人文系の歴史博物館の入館者数を調べております。それ全体で100館ほどあるんですけどもそのうちの50館から回答いただきましてその結果を見ますと、全国で第3位ということで非常に多い数になっております。決して新聞やテレビで言われてるようなものではないものですから、と思ひまして今日はぜひご報告したいと思っておりました。

その入館者、もちろん展示を見に来るわけですので、展示が重要となります。展示の根幹はやはり資料ということになりますので、本日も、ぜひ慎重なるご審議をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

事務局 前島

ありがとうございます。

今年度第1回目の委員会でございますので委員の皆様を、改めて事務局よりご紹介させていただきます。

事務局 國島

よろしくお願いいたします。今年度ですけれども、4名の委員さんを指名させていただきます。

まず日比野秀男委員長です。よろしくお願いいたします。

日比野委員長

どうぞよろしくお願いいたします。

事務局 國島

続きまして、副委員長の本多隆成先生です。よろしくお願いいたします。

本多副委員長

よろしくお願いいたします。

事務局 國島

続きまして委員の大石泰史先生です。

大石委員

大石です。よろしくお願いいたします。

事務局 國島

続きまして、樋口雄彦先生です。よろしくお願いいたします。

樋口委員

よろしくお願いいたします。

事務局 國島

ありがとうございます。

事務局 前島

続きまして簡単ではございますけれども事務局職員の紹介をさせていただきたいと思ひます。

田中課長

ご挨拶させていただきました課長の田中でございます。よろしくお願いいたします。

事務局 前島

前島と申します。よろしくお願いいたします。

- 事務局 國島 歴史文化課の國島と申します。森下の後任になります。よろしくお願いいたします。
- 事務局 川口 歴史文化課の川口でございます。昨年度から引き続きよろしくお願いいたします。
- 事務局 前島 なお本審議委員会には、資料調査を行った歴史博物館職員も同席しておりますので、必要に応じて発言をさせていただきます。
それでは簡単に自己紹介をお願いいたします。
- 歴博 宮崎学芸員 静岡市歴史博物館学芸課の宮崎でございます。どうぞよろしくお願いいたします。
- 歴博 増田学芸員 同じく学芸課の増田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。
- 事務局 前島 ありがとうございます。
続きまして、本審議委員会の設置根拠、要領、静岡市歴史博物館の資料収集方針について事務局より改めて簡単に説明申し上げます。
- 事務局 國島 改めましてよろしくお願いいたします。皆様のお手元の次第・資料をご覧ください。
本委員会は資料3ページにございます静岡市附属機関設置条例に規定されている委員会です。
資料7ページ、2-2をご覧くださいと思います。収集資料審議委員会要領を掲載させていただいております。委員会要領第3条に記載のとおり、(1)購入又は制作しようとする資料の選定、学術的価値及び価格評価に関すること。(2)寄贈又は寄託に係る資料の受入れに関すること。(3)静岡市歴史博物館に収蔵されている歴史資料の処分に関すること。以上を審議する委員会となっております。また、寄贈又は寄託に係る資料の受入れに関すること、経費が160万円未満の資料の購入又は制作は、審議に代えて報告とすることができるとなっております。
本年度は審議案件、160万円以上の資料の購入はございません。そして寄贈、寄託及び160万円未満の購入についての報告事項がございます。こちらの具体的な資料に関しましては後ほど改めてご紹介をさせていただきます。
続きまして、ページをめくっていただきまして資料8ページ、資料2-3をご覧くださいと思います。静岡市歴史博物館の資料の収集方針を乗せさせていただいております。収集する資料は7点、(1)駿府城に関する資料、(2)駿府城下町に関する資料、(3)徳川家康に関する資料、(4)今川氏に関する資料、(5)東海道(二峠六宿)

に関する資料、(6)静岡市の近現代に関する資料、(7)その他、歴史博物館に必要な資料 を対象としています。以上で本委員会の概要、資料の収集方針の説明を終わります。

事務局 前島

それではここからは条例第6条第3項の規定により、ここからは、日比野委員長に議長として議事の進行をお願いいたします。

日比野委員長

それでは進行するということですので、担当させていただきます。

それで、今回は購入がないから報告だけになるわけですので、事務局からご説明をお願いします。

あとで資料閲覧という時間を設けてあるようですので、ご説明を聞いた後、作品資料をご覧いただくということをお願いいたします。

事務局 國島

それではこれまでの購入・寄付・寄託資料について、概要をご説明させていただきます。

まずは先ほどの資料3をご覧いただきたいと思います。スクリーンにも映し出しておりますけれども、購入資料の一覧になります。令和6年4月からこれまでに、合計11件の資料を購入いたしました。

内訳といたしましては、令和5年度第二回の委員会にてご承認いただきました、駿府御分物の越前康継の刀剣のほか、大御所時代の駿府城内を描いたとされる駿府城絵図1件、令和7年度企画展開催を予定している十返舎一九の行燈図等、展示での活用がしやすい資料を中心に購入しております。

こちらは2番から7番に関しまして後ほど閲覧としてご覧いただきます。

続きまして、寄附・移管資料の表になりますが、資料4と書かれております。こちらもスクリーン上に表示させていただいておりますけれども、令和6年4月からこれまでに19件の寄附資料と、2件の移管資料、合わせて21件の受入れを行いました。主なものとして、3番の「牧之原市旧家・徳川慶喜関係資料」や13番の勝海舟関連資料の白鳥家資料、そのほか多種多様な資料を受け入れております。

続きまして資料5、「新規寄託資料」の表をご覧ください。スクリーンに表示をしておりますけれども、令和6年4月からこれまでに3件の寄託資料の受け入れを行いました。内訳としては、葵区小梳神社資料が1件、田安德川家資料が11月と2月の2回に分けて2件の受入を実施いたしました。田安德川家資料については、これまでほとんど世に出ることなく田安家に伝来してきたもので、このたび田安德川家関係者より静岡市へご連絡をいただきまして、資料の状態確認等を経て、

寄託受入を実施いたしました。こちらにつきましては「徳川御三卿 田安徳川家」展として令和8年1月に、令和7年度冬の企画展として寄託資料を展示する予定でございます。それぞれの資料の概観については添付資料内の写真をご覧くださいと思います。

資料の詳細につきましては、閲覧資料もご用意しておりますので、後ほど歴史博物館学芸員よりご説明させていただきます。

歴博 宮崎学芸員

それでは、購入そのものにつきましては静岡市の購入にはなるんですけれども、購入にあたっての資料調査ですとか現場での調査判断、そういった助言ということで静岡市歴史博物館の方で承らせていただいて、提言という形をとらせていただいておりますので、変わってご説明申し上げたいと思います。

まず購入資料、前回の委員会で審議いただきました、今スクリーンにも映っております越前康継です。こちら、まさに駿州における逸品であるということで、購入を無事させていただきました、当館の2周年事業で無料公開のときに合わせて展示を行わせていただきました。かなり多くの方にも、こちらの刀はご覧いただいたということで、状態もかなり美しいものでありますので、期間限定で下げたところ、すぐに次はいつ見られるんですか、という声が、やはりお客様からもかなり寄せられておる一品でございますので、今後の展示の活用というのも引き続き検討していきたいと思っております。

続きまして東海道安倍川駅の真景です。本日ですね、本当はこちらでお見せできればとは思ったんですが、申し訳ございません、基本展示で早速活用させていただいてる最中でございますので、もし直接ご覧いただきたいことありましたら、後ほど展示室でご案内申し上げたいと思います。こちらは明治時代の安倍川駅の様子を描いたものでございます。

続きまして丙申紀行ですね。こちらいわゆる家康に仕えた儒学者林羅山の紀行文ということで、かなり状態が綺麗な一品でございました。こちらの活用については、人間家康というコーナーがございまして、家康が学問のところで手がけた、そういった部分での紹介ですとか家康を取り巻く人たちの紹介というところでの活用ということで、2階の家康のコーナー、様々なところでの活用が見込まれるということで購入をさせていただいております。

続きまして駿府城図ですね。こちら大御所時代の駿府城内を描いたとされるということで、大御所家康時代に仕えた家臣達の屋敷の位置ですとかそういったのが描かれているということです。ただ一方で、

駿府城の周りに草むらが生えているような描写がされているので、実際に描いたのはもっと後の時期に、かつての大御所時代の駿府城を描いたのではないか、そんな見方ができるようでございます。こちら、まさに駿府城の絵図は、収集の最たる部分のところでもありますので、状態もかなりよく、後ほど実際に実物をご覧いただければと思います。

続きまして難太平記ですね。こちらは室町時代に九州探題を務めた今川了俊のしたためた書物でございます。それこそ守護今川時代の紹介とともに、一方で江戸期に制作された資料でございます。今川というものを後世の江戸期に学問として用いたとか、そういった部分でも活用できるんじゃないか、というところで、主には2階の学問として後の世にも伝わった今川のコーナーで展示を検討するものでございます。

十返舎一九行燈図、こちらも後ほど実物をご覧いただければと思いますが、来年、企画展において十返舎一九の企画展も計画されており、先ほどの年間スケジュールにも掲載されておりますが、そこでの活用ですとか、まさに今年は、それこそ大河ドラマべらぼうの影響もありますので、こういった資料を展示できることは、かなり集客にも繋がるのではないかとこのように考えております。

こちら徳川家写真ということで、それぞれですねワンセットで慶喜の家族と家達の家族が撮られた写真がありまして、これを購入をいたしました。これは早速4月から始まります明治維新と静岡の企画展にて展示を予定しておりますのでございます。

今川手習状、こちらも先ほどの難太平記同様、江戸時代に刊行された手習いの教科書でございますので、こちらも今川了俊の訓戒状を題材としているものでございます。

古状揃、こちらも同じく了俊のものでですね。こちらは女今川、まさに基本展示で展示しているものと入れ替えて使用できるもので、状態もそれぞれかなり良くて、元々持っていたものよりもいい状態のものもございまして、展示替えにおいてそういったところも対応できるような、かなりこの部分の資料が充実できたことは大きい収穫だったかなと考えております。

購入資料については以上になります。

歴博 増田学芸員 続きまして寄贈です。

こちらですけれども、江戸時代に作成された町絵図、かまど割、税を徴収するための例を示すために作られた絵図ですけれども、駿府96ヶ町に残されておりますけれども、こちらは上大工町に残された町割り絵図になります。家数の書き上げ等細かく書かれておりまして非常に大きな点も見どころの一つとなっておりますけれども、こういった資料が寄贈ということになりましたので、また閲覧の方でご紹介をさせていただきたいと思っております。

歴博 宮崎学芸員 こちらは坂倉家資料でございますけれども、清水第二中学校の教育の資料でございます。戦後すぐのものということです。今回のこの寄贈以外にも、地域の戦前戦後あたりの教科書とか寄贈を結構受けておりまして、こういった資料が意外に残っていないということもありますので、こういったお声掛けのきっかけ、やはりこういった資料もあるということでございます。

八木家資料です。恐れ入りますが、資料をちょっと修正させていただければと思っております。八木家につきましては牧之原ではなく吉田町だったと思っております。申し訳ございません。こちらは徳川慶喜がしばしば訪問した現在の吉田町の旧家でございまして、こちらに慶喜が訪問したとき、どういった方がいらっしゃって、泊まっていったという記録ですね。写真右手の目録、それに時々慶喜公が宿泊したというような記録が残っています。左側の方はまさに慶喜の書でございまして、それぞれ後ほどご覧いただければと思っております。

水上家資料、こちらは鳥坂の旧家の近世の古文書類でございます。元々一部は既に静岡市の方に寄贈を受けていたものでして、目録なんかも作成されていたんですけれども、それがさらに追加で見つかったものです。まさにこの旧家の水上さんが引っ越し処分する寸前のところでお声掛けをいただいて、何とか収集することができたということで散逸消滅を食い止めることができた資料でございます。清水鳥坂旧家の資料でございます。

こちらは市川家資料です。旧幕臣だった市川家の幕末近代の古文書類一式です。もう相続される方もいらっしゃらないということで、ほぼ全てこちら静岡市の博物館に寄贈ということになりました。一部次回の企画展でも使用を計画しております。

井上馨の資料です。世外（井上馨の号）とあるように井上馨のものということで、あいにく「別荘ものがたり」ではちょっと出番がなかったんですけれども、今後活用していきたいと思っております。

静岡大火の関係資料ということで、静岡大火を当時伝える刊行誌が見つかりましてそれを寄贈して下さったということで承りました。こちら静岡大火の写真帖の方は特に、もうこれは多分手に入らないのではないかと、そういった代物を頂戴できました。

鷹匠大村家資料です。火消し関係の用品衣服といったもの一式の寄贈を受けました。その他関連の古文書ですとか、あと天保期の小判など、かなりバリエーション豊かな近世の後期の資料が残っております。そちらを寄贈賜りました。

こちらは水見色の古文書ということで年貢の受け取り状でございます。これ一点だけなんですけれども水見色の近世資料として承りました。

そして池田家資料、旧由比の資料でございます。今宿の名主を務めた池田家の古文書ということで甲州との流通など、そういった地域性を示す資料ということで寄贈賜りました。

こちらは火縄銃でございます。こちらは県外、東京の方からある日お声掛けをいただきまして、寄贈賜ったものです。駿府の鉄砲鍛冶、石田勘蔵による作品であるということです。ちょっと残念ながら現地では銘を確認することができなかつたんですけれども、登録証がございまして石田勘蔵の作品であるということで確認が取れまして駿府の職人による火縄銃ということで寄贈を賜りました。

こちらは小島藩五代藩主の掛軸ということです。小島陣屋の書院の復元に伴って、小島氏に関する資料ですが、こちらは当館では原本を承っています。現地の小島陣屋の顕彰として、実は地元でこういった資料を守る方々が、複製を作っていて、現地で複製を展示して顕彰をする、原本、原資料を博物館で保管すると、そういった形で市の方へ寄贈を賜っております。

そして白鳥家資料でございます。主に今回ご紹介するのは勝海舟に関する資料でございます。勝海舟がかつて門屋の旧家に隠れ屋を建ててそちらで過ごした時の一品ではないかということで、門屋村の白鳥家が名主を務めておりまして、そこに伝わる勝海舟に関する資料でございます。

こちらは平野の資料でございます。葵区平野の旧家に伝わる茶業とか林業とか、そういったものに関する資料でございます。さらに近代の資料も含まれております。

続きまして荻野家文書、牛妻の旧家、門屋村よりもう 1 個隣の北側の上村ところの旧市長の方のご自宅のですね、そちらの資料を賜ったということで、近代の資料でございます。

静岡鉄道記念乗車券等です。当館は今年度静鉄を主体としたしずてつ展を行わせていただきまして、それに伴ってこういった静鉄に関する資料といったものも賜りました。ちょっと他の歴史資料と一線を画するという、ジャンルが変わったものでございますけれども、静岡の歴史文化を広く彩る上では、重要な資料だろうということで、寄贈を賜っております。

後藤新平の扁額ということで、ボーイスカウト設立に関する資料、後藤新平自身もボーイスカウト設立に寄与した人物であり、そのボーイスカウト関係でいただいたものということで、今回時を経てこちら静岡市歴史博物館の方へ寄贈賜った一品でございます。

水野半兵衛写真資料です。こちらは静岡市出身の写真家水野半兵衛が撮影した、写真のガラス乾板ですとか水野半兵衛が用いたカメラそのものが一式残っておりまして、ご家族の方から寄贈を賜っております。

こちらは慶喜の追討の高札ということで、まさに幕末鳥羽伏見において掲げられた高札の 1 枚ですね。所有者様よりご寄贈賜りました。この高札は早速、明治維新展でも活用、展示をする予定でございます。

その他、こちらは 16 代家達の書でございます。市立中央図書館が元々所管していたものを、静岡市歴史博物館の方に移管させていただいて、收藏することとなりました。

こちら小島藩関係の資料でございます、これは一般の方から寄贈を賜ったもので、まさに小島藩の村支配に関する古文書でございます。

寄贈関係は以上です。

歴博 宮崎学芸員

続きまして、寄託です。お預かりした資料につきましてはこちらの資料 5 をご覧ください。

小梳神社の資料でございます。一つは、写真の左上にあります林羅山の木札、そして右側が徳川慶喜の書、小梳神社と書かれたものということです。特に左の木札、こちらは当館での開館グランドオープンの際の企画展において展示をさせていただきました。そのときは借用という形で展示したんですけれども、今回小梳神社様が、こういった資料を火災ですとかそういったことから守っていく、というところに不安を覚えるということで当館を頼りにしたいというお声掛けをい

ただきまして、この度寄託という形でお預かりすることとなりました。うち右側の小梳神社の書は、次の明治維新展でも展示をする予定でございます。

続きまして田安德川家資料でございます。昨年の夏、7月頃、田安德川家関係者よりお声かけいただきまして、田安德川家の資料がちゃんと残っている、正直家族で今後ずっとこれを守っていくことがなかなか難しい、ということで、ご相談をくださいまして、調査に行かせていただきました。そしてこれまで世に出ることなかったこれら田安德川家の資料を、今回寄託という形で、当館でお預かりすることになったということでございます。

そして、今回田安德川家資料につきましては、もう一度追加でご依頼がございました。実は先ほど最初に紹介した田安德川家資料は、田安德川家の別荘にずっと保管されていたものをお預かりした。一方でこちら追加でというものは、田安德川家の嫡流家のみに伝わっていたもの、ご家族たちは家宝という表現をされていたんですけど、こちらあわせて静岡市歴史博物館の方でお預かりいただきたい、というお声かけをいただきまして、追って調査に行かせていただいて、こちらもお預かりするということになりました。特に、田安含めた將軍家の家系図ですとか、系譜、あとは実名とか偏諱（へんき）ですとか、そういったまさに嫡流家のみに伝わる資料がこちらということで、それも合わせてお預かりして、一式で田安德川家資料一括という形で当館に収蔵ということになりました。それを今回、令和7年度の冬の企画展で公開すると、展示をするということを予定して準備を進めております。

寄託資料については以上でございます。

事務局 國島

ありがとうございます。

今回、前の方に一部閲覧資料を用意しております。購入資料につきましては5件をご用意しております、寄附資料につきましては3件、続きまして寄託資料の田安家資料に関しましても一部をご用意しております。順不動になりますけれども、閲覧していただきたいと思いますので、少し準備時間をいただいてもよろしいでしょうか。

(資料閲覧準備)

日比野委員長 先ほど課長さんから入館者数の話がでて、全国的にもそれほど多いところは非常に限られていてね。知っている範囲で一つ二つ申し上げると、名古屋市博物館というのがありましてね、かなりやっぱ大きいし、もう入館者が多いんですけど、一つは貸しギャラリーがありましたよね。

田中課長 はい。

日比野委員長 一般市民にいつも貸していて、それが結構大きな数字なんです。それが一つと、新聞社との共催で大きい展覧会をやって、その時にかなりの大きい人数が入るんですよ。それで館独自の企画展はそれほど大きな人数じゃないんです。1万5000人とか、悪くすれば7~8000人とかね。だから純粋な企画展、館独自のものでしたら、どこもそんなに多くはないし、この館の場合はその大きい展覧会がなかなかできないものだから、そこをどうしていかってということだと思っんですけどね。東京とか名古屋でやる大きな展覧会は、ここではできるわけではない。できるものは非常に限られる。だから入館者数20万って言ったとしても、館独自の展覧会だったら1万人前後位だと思うんですよ。どこも大体そうなんです、新聞社がついてるから大きな数字になる。

田中課長 名古屋市立博物館の方は調査しましたが、ちょうど今はリニューアルで閉めているそうです。令和4年で33万人が年間でいらっしゃった。当館が28万人ですので、5万人ほど多い。やはり貸しギャラリーというのは、当然そこを借りた方たちが、関係者を含めていろんな方に声をかけて人数が増えると思いますので、そういったことになってるんですね。

日比野委員長 美術館なんかもそうですよ。貸館が一応ありますよね。

田中課長 はい。

日比野委員長 そちらで入る数を増やすことができるんですよ。

田中課長 そうしたらこちら、この周りあたり、そういう使い方もあるかもしれないですね。

～資料閲覧～

大石委員 (刊本の版について)

所蔵品はチェックできていますか。

歴博 増田学芸員 難太平記のほうは、そういう所まではちょっと。

大石委員 今、ざっと見て、貞享の奥付で、それしかないから多分、年代的にもそのあたりでいいんだろうなと思ってね。で、基本的に、この柳枝軒がそれこそ、この茨木多左衛門にあたるっていうのだけはわかっているみたいだし。ただ、CiNii（文献データベース）で当たると、一応これは出てくるらしいから。結構今、CiNii にいろいろ入れ始めてるんだよね、あのTRCが結構いろいろやってるんで。もしこれを後のやつがまた加わってきちゃうと、版が変わってきちゃうっていうのもあるから、だからとりあえずはこれで問題ないのかなっていうふうな気がしますがね。貞享だったら、時期的に結構上がっていいのかなって気がする。

大石委員 （田安家資料・宣旨について）
ここ（源朝臣～）を開けといてあとから書いている。墨がちょっと違うから、ただ書いてる方は多分同じ。ここ（源朝臣～）を開けておいて、名前は何かあとから。不思議なんだよね。

歴博 宮崎学芸員 宣旨も、口宣案から全部そろっている。最終的に中納言まで行く、順番にだんだん位が上がっていくのが一揃い残っています。

中村前館長に、田安家の資料があつてね、とお声をかけていただき、葵文庫のあつた地に収めたいと。

本多副委員長 大河ドラマにも田安が出ていますね。

歴博 宮崎学芸員 偶然こちらで収集を発表したタイミングにドラマで田安家が、すごくタイムリーに出てきました。

歴博 宮崎学芸員 （駿府城図について）
描いている内容は家康の時代なのだけれど、ぺんぺん草みたいなものが描いてあって、実際に現場を見て描いているのはだいぶ後の時代なのではないか。

大石委員 宮崎さん、いつくらいと考えていますか、描かれた時代。中期かな。

歴博 宮崎学芸員 この草の描写が、あまり見たことがなくて、これは推測ですけども、だいぶ後の一地方行政下になってしまった駿府城の図なのかなと。家康時代には、こんな草ぼうぼうなのは、リアルタイムではないのでは、という。注記に、記憶による、みたいな表現が多い。朱書きを見ると記憶をたどって書いている部分もあるので。

日比野委員長 駿府城の絵図だけをたくさん集める展示の予定はあるのですか。

歴博 増田学芸員 今のところはないんですが、去年の駿府城展のときに、個人所蔵のものとかをなるべく集めさせていただいて。

日比野委員長 掛川報徳社のものもそうですね。それぞれ並べれば、時代がわかってくると思うけど、1枚ずつ見てもわからない。

歴博 増田学芸員 今、3階に江戸前期から中期に書かれた駿府城の絵図を展示させていただいて、これで前期中期とききましたけど、少しずつちよつと。

歴博 宮崎学芸員 北門の方に開かずの門という表記があるので時代が下るのかなと。今の様子とかつての様子をそれぞれ表現している。

大石委員 おそらく前・中期が混ざっている。そうすると描いたのは中・後期になってくるんだろうなと。こんなのは前・中期にはなかったね、小細工小屋。小細工という表現があまりないから、そこから探せないかね、時期を。

歴博 増田学芸員 それはちよつとやっていきたいなと。

大石委員 (資料の保管)

文書の保管方法などは変える予定はありますか。

歴博 増田学芸員 中性紙封筒に順次ちよつと入れ替えを、デリケートなものから優先して実施していきます。

歴博 増田学芸員 (上大工町図について)

県立中央図書館に同じような町絵図があるんだけど、これはそれよりもう一回り大きくなります。かなり縮尺としては大きめ。絵図を製作して、町の方で控えを作っている。判はいろいろなのですが、上大工町はちよつと大きめです。絵図に書付が付いた状態のものが多いので、少なくともその書付と絵図は、当初はくっついていたと思われる。

本多副委員長 やっぱり大工が多いんだね。これからいろいろと調べたら楽しそうですね。

樋口委員 これは全部天保13年ですか。こちらの絵図は名字があるんですけど、こちらは名前だけですね。

歴博 増田学芸員 一般には天保、元和、明暦、あとは明治に入ってからのものも各地に残っています。

日比野委員長 名字が付いているのは明治以降ですよ。

大石委員 これから分析していただいて。こっちは地番が入っているね。

樋口委員 名前が一致するところもありますね。このお寺が同じで、横のところの人名が一部一致するんです。古い時代と新しい時代で、この2枚は同じところの地図ですね。

【資料閲覧終了】

事務局 國島 以上で資料の閲覧を終了させていただきたいと思います。

今、ざっとそれぞれのグループの資料をご覧いただきましたけれども、質問などはございますでしょうか。

日比野委員長

質問ではないんですけど、今日の会議に出る二、三日前に気が付いて、たくさんもらったり、たくさん買ったたりして、収蔵庫がどうなるのかなというのが一つと、それから調べるのが追いついていくのかなあ、というこの二つがね。

多分これからも寄贈したいという話がかかなり出てくるんじゃないかなと思うんですよ。そうすると博物館の業務の一つとして、調査なり資料作成ということ意識していかないと、溜まったまんま、どんどん入ってきて、大変なことになるんじゃないかな。5年先とかでも人が一部入れ変わったりするでしょうし、追いつかないと、その辺をかなり真剣に考えていかないと、とんでもないことになっちゃうんじゃないかな、っていうふうに思ったんですけどね。

それでそのリストにしましても、今回のこの購入と寄贈というその受入の違うことによって今リストが出てるんですけど、博物館側からすると種別とか時代とか、内容によってリストを作るべきで、これは購入で入ってきた人です、これは寄贈でもらったものですよということは、一つの理由としてはあるにしても、博物館資料の内訳っていうか内容から言うと、やっぱりそのものがどうなのか、っていうことのリストを作っていないといけないので。静岡市歴史博物館の資料は何点ですか、と言われたときに、何々時代のこういうものが大体このくらいです、とか、その辺の内訳が出るようにしなきゃいけないんじゃないかなっていうことを感じたんですけど。今どの程度か、これからどんなふうにするのかっていうお話があれば、お聞きしたいなと思ったんですけどね。

事務局 國島

ありがとうございます。

歴博 宮崎学芸員

大変耳の痛い御指摘でございまして、寄贈、寄託、様々な形で資料の収集をする際、何らかの形で情報を得て調査に行くときは、やはり私達は資料の収集方針と、まずは展示でしっかりと使えるかどうかというところも、その2点がある意味シンプルに、まず大前提として考えて調査に伺うようにしております。

なので調査したものは、とりあえずわからないけど持ってくる、みたいなことは今のところなく、ここまでやってきているところです。一方で、既にこの博物館が始まる段階で静岡市にあった資料というのも収蔵されている。そちらに一員として新しいものが加わっていくところの整理というのは、やはりしっかりと今後も取り組んでいくべきことで、今回は、皆様にお伝えさせていただくというところで、このように寄贈、寄託、購入というふうに分けてはおりますけれども、

寄託も、基本的には静岡市としても、私達博物館としても、館藏品として同等として取り扱いますということを条件にさせていただいておりますので、時代ごと分野ごとということで、この展示で活用できる、こういった形で検証できる、研究できるということは、私ども今後しっかりと取り組んでいきたい。

日々の業務とともにしっかりとそういった資料と学芸員が向き合う時間というのは、ここも3年に入ろうとしておりますので、腰を据えていきたいなということを念頭において、プライオリティとしては上位に持ってきて考えていきたいと思っているところでございます。

大石委員

ちょっと引き続いてよろしいですか。収蔵資料リストを別紙1という形で、かなりの点数を今回ご提示いただいて、そこで最初のところから見ていると、例えば31番ぐらいからずっと銃刀という形で刀の類が出てくる。今回の購入した刀もそうですけれども、刀の手入れとかそういうのっていうのは確実にやっていかなければならない。さらに、学芸員さんの中で、それこそ刀剣の資格というか、そういうのも当然どなたかにやっていただいて、さらにその方が仮に異動してしまっても、引き継いでやっていけるような状態にしていかなければならないと思うんですね。その辺はどのように考えていらっしゃるでしょうか。

歴博 宮崎学芸員

学芸員それぞれのスキルアップというのはやはり資料とともに磨いてい続けなければならないかなというところは、個人それぞれ思っているところでございます。

確かに刀剣をしっかりと扱える学芸員というと、やったことがある学芸員はおりますが、いわゆる資格とかっていう形ではあいにくまだまだ習いに行かなければならないところであります。

文化財資料館に元々多くの刀剣があった物が、今この博物館に入っているのです、しっかりとそういったところ、それぞれの担当のみならず様々なジャンルの資料が既に当館にもありますので、それに合わせて必要な手入れ管理ができるスキルアップも並行して、いろんな研修など案内いただいておりますのでなるべく参加する機会を設けるとか、すすんで行くようなことができたらとは思っております。

大石委員

今おっしゃったように、それこそ、刀の場合だったら刀剣博物館があつたり、そういう専門のところがあるわけですから、それにどんどん参加してスキルアップしていくようにしていかないと。それが先ほど申しましたように、お一方だけでやっていくというふうになると、その方が申し訳ないですけど、例えば倒れたとか、あるいはどこかの館に移られる、というふうになったときに、当館そのものの問題に

もなっていく、とならざるをえない。ですから、そういうのを意識しながら、次の世代を含めて、先ほど日比野先生がおっしゃったように、10年先とかそういうところを見据えながらのお話になってくると思うんで、ぜひお考えいただきながら、お願いしたいなというふうに思います。

樋口委員

今日見せていただいた、現物資料であるとか、あるいはリストは良い資料集められたと思いますので、良かったと思います。

あとはもう個人的な質問なんですけれど、白鳥家資料、ピストルとか、文書1通、大久保一翁からの手紙を見せてもらいました。他に何か、全部で30数点あるみたいなんですけども、勝海舟本人の手紙とか書いたものはその中にはなかったですか。

歴博 宮崎学芸員

扁額があったのと、嘘ではないと思うんですが、勝海舟の手帳ですとか、お茶碗ですとか。門屋という場所で勝海舟が過ごしていたのは、プライベートにより近い過ごし方をされていたのかなと、地元の言い伝えも含めてありますので、その勝海舟が過ごしたという証の資料はいくつかございました。

なので、お手紙はですね、受け取ったものはあるんですけども、出したものは白鳥惣左衛門あてに出した、例えば、住宅を建てるので土地を譲り受けますと、ちゃんと村のルールに従いますよとかの誓約書、そういったものは残っておりまして、勝海舟の書簡というところで、そういったものもございました。

樋口委員

そうでしたね。思い出しました。白鳥家資料というのは今まで結構あちこちで紹介されていますので、その領収書みたいなのは見た気がします。確か、写真で紹介されてた雑誌とかも過去にあるので。

今日見せていただいた大久保一翁の手紙なんかも、これまでその存在を知られていたもので、多分勝海舟全集に収録されてるのかなっていう気はしますけど。ひょっとして漏れていたら、貴重かもしれませんけれど、すぐ確認できます。すみません、ちょっと個人的な関心で。

歴博 宮崎学芸員

ありがとうございます。

日比野委員長

もう一つ、先ほど資料の取扱いのお話が出ましたけど、この今年の展覧会で、仏像の展覧会がありまして、それで僕がちょっと聞いただけの話を参考までにお伝えしますと、ある美術館で仏像の展覧会をやる、それで国の指定とか県指定のものが出ると。それで文化庁に相談に行ったら、仏像を扱う学芸員はいますかと尋ねられた。美術館だから仏像を扱う学芸員がいないので、助っ人で仏像の研究者として知ら

れている人に頼んで調査とか展示と手伝ってもらおうと答えたら、それは、いいでしょう、と言われたそうです。

ただそのときにまた言われたのは、常駐で専任の仏像を扱う学芸員がいないと駄目だって言われたらしいんですよ。一応展覧会そのものは指導を受けて何回開催しますと、それはそれでいいわけですが、常駐の、専任の仏像を扱う学芸員がいないと駄目だと言われたと聞きました。その美術館は2人ぐらい研究者の人に入ってもらって、しのいだということです。

刀の展示もそうにしても、漆なんかも結構うるさいんですよ。漆もね、研究者いますかって言われたときに、何とかさんに手伝ってもらいます。何とかさんがどの程度の方か、名前だけなのか、実際その人が集荷や展示作業をやるとかね、その辺老婆心ながらちょっと気がついたことあるので、お伝えしておきます。

歴博 宮崎学芸員 来年度の当館での仏像展につきましては、確かに仏像の専門の常駐学芸員がいないという状態ではあるんですが、静岡市の保護審議会の浅瀬先生の監修を受けるという形で、仏像への取り組み、アプローチというものは勉強させていただきながら、アドバイスをいただきながら、当館としても取り組んでいる。調査ですとかを続けておりますし、文化財の仏像もございますので、それは必要に応じて文化庁ないし、県の文化財ですとかそういったところに、既に必要な書類の提出とかも今進めている状態でございますので、それに伴って文化庁からこういうふうしてくださいという宿題をいただいたり、今そういったキャッチボールもさせていただいております。今回の仏像展は、仏像そのものの美術的な美しさ、魅力というものを伝える、いわゆる美術館としての展示、魅力のお伝えの仕方というところも頑張っ取り組んでいきたい一方で、この仏像というものを一つ軸にして、それを伝えてきた静岡の各寺院の紹介ですとか、静岡の仏教の歴史、そういったところにまで言及できればと。あとは、やはり指定品もあるものですから文化財課にご協力を賜っておりますので、いわゆる文化財を守っていつているんだ、仏像を一つ主体にしてそういった取り組みも含めて紹介をしたいなど、そんな展示を目指していこうというふうに考えております。なのでトータル的なところでの仏像ですとか文献ですとか寺院とか歴史とか、そういったものを含めてのアプローチということを今考えて実際に準備をしているところでございます。

やはりどうしても歴史をテーマとした企画展ですと、それぞれの資料のジャンル、刀剣だったり仏像だったり漆工品であったりとか多岐

に渡って、その都度その専門はいるかないかかっていうふうなところになってくると、各分野で 100 点は取れずとも、学芸員として何とか 70 点まで持っていった上で、残りのここはというところを、外部の先生にサポートいただくですとか、そんな形でアプローチして多岐にわたる分野の資料を取り扱ったりですとか、企画展というものを実施していく、そんなことがやり続けられる。

なので、資料に向き合うことと、横の繋がりですね、様々な有識者の方々ですとか、先生が他の博物館のそういった技術を持った方々とのコミュニケーションというものも、あわせてやっていく必要があるかなということは、やはり企画展ですとか普段の資料調査も含めて感じるところでありますし、当館としても取り組んでいくべきだというふうに心得ております。

事務局 國島

続きまして令和 7 年度に購入予定の資料について概要を説明させていただきます。スクリーンの別紙 2 をご覧いただきたいと思います。

令和 7 年度の資料購入費の予算は 18,572,000 円となっております。これは令和 6 年度予算からはマイナス 18 万ほどですが、ほぼ 6 年度並みの予算となっております。購入候補資料につきましては主に基本展示で活用できるものを中心にさせていただいております。

候補リストを上げておりますけれども、番号が若い順から購入優先度の高い資料となっておりますけれども、新たな資料が出た場合は追加の入れ替えを行うという可能性がございます。資料調査を順次進めていく所存でございます。それでは、かいつまんで資料の詳細を博物館から御紹介いただいてもよろしいでしょうか。

歴博 宮崎学芸員

はい。それでは来年度購入の候補として挙げさせていただいております資料の一覧でございます。ピンポイントで絶対これを買うというよりは、今の時点でこちらを欲しいものとして捉えています。場合によってはもう既に売れてしまったりですとか、より良い資料、適正な資料が出てきた場合はそちらに入れ替えるということを前提に、現段階での購入候補資料としてご理解いただければと思います。

今、当館は平たく言えば、収集方針に当てはまるものについてはどれも欲しいというのが本音ではございますけれども、中でも、日頃、展示の入れ替えですとか様々な企画展を考えていく上で、やはりここはちょっとまだまだ少ないなというものを上げています。

特に一番に持ってきた武田信玄の書状、いわゆる駿河における武田の支配の時代の資料という形でなかなかやはりまだまだ当館としては、数がないというところでもありますので、こちらちょうど 350 万

という金額ではありますが、駿河の安西安川原新田の30貫文を職人に支給するというような判物とかそういった内容でございまして、そういったまさに駿河支配を端的に示す元亀二年の書状でございまして、状態もかなり良い。古物商からの情報提供があったものですが、調査に行つて、収集方針等にふさわしい資料であれば、購入の方に進めていきたい、というふうに思つてます。

そして2番目の源氏大要についても、これ実は今川範政の書いた源氏大要の写しであるということで見つかったものでございます。なかなか原本を見つけるのは至難の業でございまして、写しでもかなり貴重なものでありまして、先ほどの駿河武田の資料がまだまだ薄いというのと同時に、守護大名時代の今川の資料というものがなかなかこれを手に入れることができなくて、今川範政、5代目の守護に関する資料ということでかなり上位の位置づけとさせていただきます。

その他、近世の3番4番、これは、海路図だったり馬印の絵だったりとか、やはり文書以外のビジュアル的なところ、今日お見せした駿府城絵図や東海道図屏風もそうなんですが、絵図を集めて比較研究ですとかそういったところにも最終的には持っていきたいということ、やはりお客様方が楽しむものとして、絵図ですとかこういった馬印ですとかはカラフルですね、平たく言うと。そういったものの魅力っていうところも一つありますし、総合的に考えてそういった文書以外の分野のそういった資料を集めたいということでございます。

その他、近代の資料は寄贈や寄託では結構出てくるんですが、なかなか購入関係では出てきにくい中で、東海暁鐘新報は、自由党の政治機関紙のはしりでございます、自由民権家の人たちがはじめたもので、特にこの東海暁鐘新報で物書きをしていた渋江保という人物は、静岡県の教育界で最終的に英語の教育の場に活動されたということで、静岡に関する資料ということで捉えております。

そういった形で、資料の収集、こういった収集の一覧にある中での埋めていくべき資料ですとか、一方で、普段展示替えですとか、そういった表に出す資料としてまだまだ必要であるというところを重点的に見ながら、資料の購入候補のリストを出させていただきます。

簡単ではございますが、以上が一応購入の予定の資料でございます、また金額は160万を超えているものにつきましては有識者の方々の価格評価、資料評価をもって皆様のご審議をいただくものになりますので、そういったところのお力添えいただければと思います。よろしく願いいたします。

事務局 國島

ありがとうございます。7年度の資料購入に関しまして質問はよろしいですか。

大石委員

すいません。今回の金額、ずいぶんついているなっていうふうに思ったところでして、今これだけついているところはほとんど全国的にもないと思います。ですので、そういう意味では有効に利用していただきたいというのがまず一点と、それでちょっと手前みそで恐縮なんですけれども、来年2026年の段階で考えると、今川氏親が亡くなって500年というところがあって、当館はまだオープンしてから浅いところもありますけど、それこそ今後、今申し上げた生誕何百年とか、あるいは没後何百年とかっていうようなことは、いろんな自治体さんも当然のことながらやっていた、今後もやっていってもおかしくないと思うんですが、そうなったときに、例えば今回の資料では、今川氏親の資料を、6・7年前ですか、購入とかもしてましたけれども、またそういうようなところも含めて、ぜひ。

今回十返舎一九の購入という形になりましたけども、アンテナをちょっと張っていただいて、もし購入することができれば、またそういう展示をやるのかどうかに関係してくると思うんですが、ぜひお考えいただければなというふうに思います。

歴博 宮崎学芸員

そうですね、今川氏親没後500年ですと増善寺のご住職から張り切ってお声をかけていただいている、増善寺の方の調査といったところを取り組んでいきたいと思っている次第でございます。

今川の資料は残念ながらここ最近、いろいろなところを見ているんですが、ちょっと姿を現していないのと、明らかに10年前に比べて高くなっております。この金額でいけるかなと思ったら全然いけないというパターンが増えてきている。

これは古書店の方々もちょっとびっくりしている現状でございます、やはり高い大名、武田とか毛利が元々高かったんですけども今川は金額的にあまり高くなかったのが、かなり上がりだしているという話を古書店さんからも伺いしていて、今川資料の調達の難易度が上がっている中で、やはりアンテナを高くして、個人的にもやっぱり今川を調べさせていただいてる立場でもありますので、そういった野心も含めてアンテナを高くして没後500年に向けた取り組みを。そういった時勢にならった、時流に乗った資料を集めて、そしてそれがそのまま基本展示で活かせる、そういった資料を念頭に置きながら資料を集めていきたいというふうに考えております。

田中課長

予算については私から。資料の購入予算ですけれども、当初ここを建てる時にいろんな部局との話し合いの中で開館後4年間は、こういう資料購入費というのを一定確保する方向で整理しております。ですからこれが8年までということになりますので、それ以降についてはだいぶ厳しくなることが予想されます。そういった中でもやはり必要な資料というのは購入したいものですから、これから寄付などを集める方法なども考えていきたいと、例えばふるさと納税でありますとか、こういったものを活用していきたいというふうに、今考えているところです。

事務局 國島

ありがとうございます。7年度購入資料についてご質問などはありますでしょうか。

委員

(なし)

事務局 國島

ありがとうございます。では、議事は以上となりますので、進行を司会へお返しします。

事務局 前島

委員の皆様、本日はお忙しい中ご出席ありがとうございました。この後、事務局より今回の委員会のとりまとめ及び次回委員会の開催についてご案内させていただきます。

それでは、以上で静岡市歴史博物館収集資料審議委員会を終了させていただきます。本日はご審議をありがとうございました。